

## 基調講演 近世日本における「塾」という空間

橋本 昭彦 soubun@white.plala.or.jp

(足利市世界遺産検討会議 座長、

国立教育政策研究所 総括研究官)

**1 まえおき**

- ・江戸時代～「大開発」の時代の社会変化 【資料1】
- ・日本人の「学識」～外国人の記録・証言から
- ・身分に関わりないお稽古好き・学習好き 【資料2】江戸師匠の人名録

**2 「塾」ということは**

- ・広漢和：もんべや。門の両側の小部屋で家中の者を教えた。音は「孰」
- ・「手習塾」=いわゆる寺子屋、「学問塾」=漢学塾、洋学塾、国学塾、医学塾など
- ・「寺子屋」「私塾」「藩校」という分類自体は、明治以後に通用 【資料3】
- ・必ずしも「～～塾」とは名乗らない 【資料4】主な私塾の名称

**3 「塾」の歴史 ～近世教育機関の一つの基本型か**

- ・起源は不明。「藩校」よりは古くからあり、藩校の消滅後も存在
- ・「藩校」といっても「塾」を取り込んだものも少なくない  
例：笠間藩の時習館=文化14年（1817）、秋元浚郊（しゅんこう）の私塾を藩校とした
- 例：岩槻藩の遷喬館（埼玉県）=文化年間に児玉南柯の私塾を藩校とした
- 幕府の昌平坂学問所も、林家塾から学問所へと展開 【資料5】

**4 「塾」の多様化**

- ・儒学、洋学、国学、医学、兵学、その他
- ・地域で発展した塾が多い →全国展開の有名塾も 【資料6】門人の出身圏
- ・同志の「勉強会」に近いものも  
例：幕臣・近藤重蔵の「白山義塾」や幕臣・三島政養（まさきよ）の勉強会など
- ・塾の規模も教育内容もレベルもまちまち。結果中心・評判中心で評価が定まる

**5 教育の全国システム**

- ・幕藩体制の行政文書の書式や書体に共通性 → 「書き方」の学習に共通性
- ・師匠や学習者の全国的ネットワーク → 【資料6を再参照】
- ・塾などの学校間交流や影響関係  
例：咸宜園の「月旦法」の伝播 【資料7】
- 多様な学び手に対応する仕組み
- 保存状態などの良好な4資産で世界遺産登録を目指している

**6 終わりに**

- ・塾の歴史は不明の部分が多い、細部こそ大事、研究は無限

**橋本昭彦氏講演要旨**

## 近世日本における「塾」 という空間

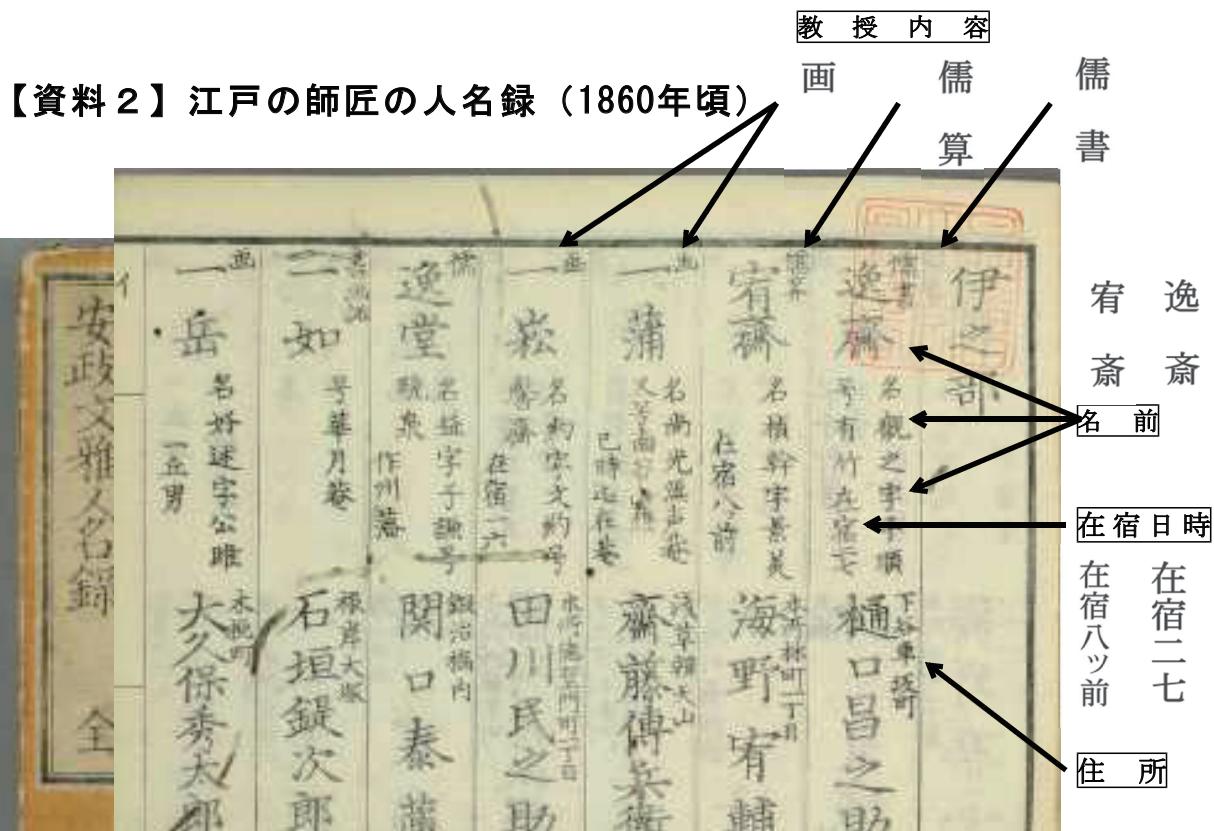
質問欄

担当： 橋本 昭彦 soubun@white.plala.or.jp

## 【資料1】江戸時代～「大開発」の時代の社会変化

	江戸初期(1603)のころ	享保(1716-1736)のころ
人口	1000万～1200万	3128万人(1721年)
耕地面積	206万町歩	297万町歩(1730年頃)
人間関係	従来は、血縁・地縁が主（見える人間関係）	契約・為替・手紙の普及（文書化・ネットワーク化）
文書量	法令、行政文書、契約書、通信が増加	さらに増大

大石慎三郎（1923-2004）『江戸時代』、中公新書、1977、をもとに橋本作成



桶口逸斎 1812-1877 江戸後期・明治時代の書家。幼時から父にまなぶ。  
頼山陽に師事して詩文もよくした。名は觀之。字（あざな）は子順。通称は昌介。

『安政文雅人名録』1860年頃、早稲田大学付属図書館所蔵。「桶口逸斎」は『日本人名大辞典』より一部引用。

### 【資料3】寺子屋（手習い塾）→私塾（学問塾）→武士の学校（藩校等）

学校（藩校等）	約300藩の大多数に開設
私塾（学問塾）	江戸時代の私塾の開設数約 1,140 *
寺子屋（手習い塾）	〃 寺子屋の 〃 約 15,550 *

室町 江戸 明治

\* 数値は文部省『日本教育史資料』(1890)

### 【資料4】主な私塾の名称

#### 主な漢学塾（他県）

護園塾（東京） - 萩生徂徠  
長善館（新潟） - 桂湖村  
藤樹書院（滋賀） 中江藤樹  
古義堂（京都） - 伊藤仁斎  
懐徳堂（大阪） - 中井斉庵  
泊園書院（大阪） 藤沢東畈  
松下村塾（山口） 吉田松陰  
咸宜園（大分） - 広瀬淡窓  
心学講舎（東京他） 石田梅岩

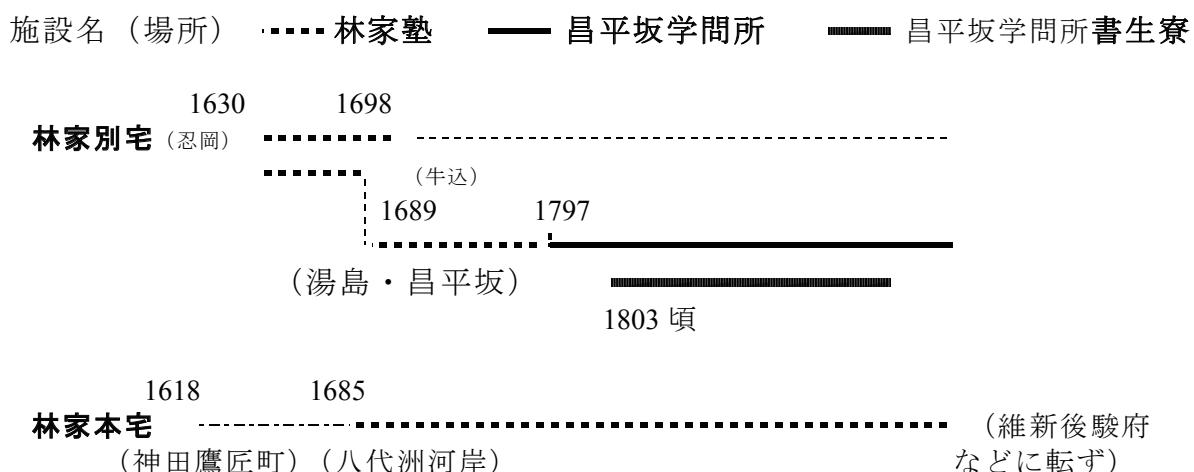
#### 主な国学塾

和学講談所（東京） 堀保己一  
鈴屋塾（三重） - 本居宣長

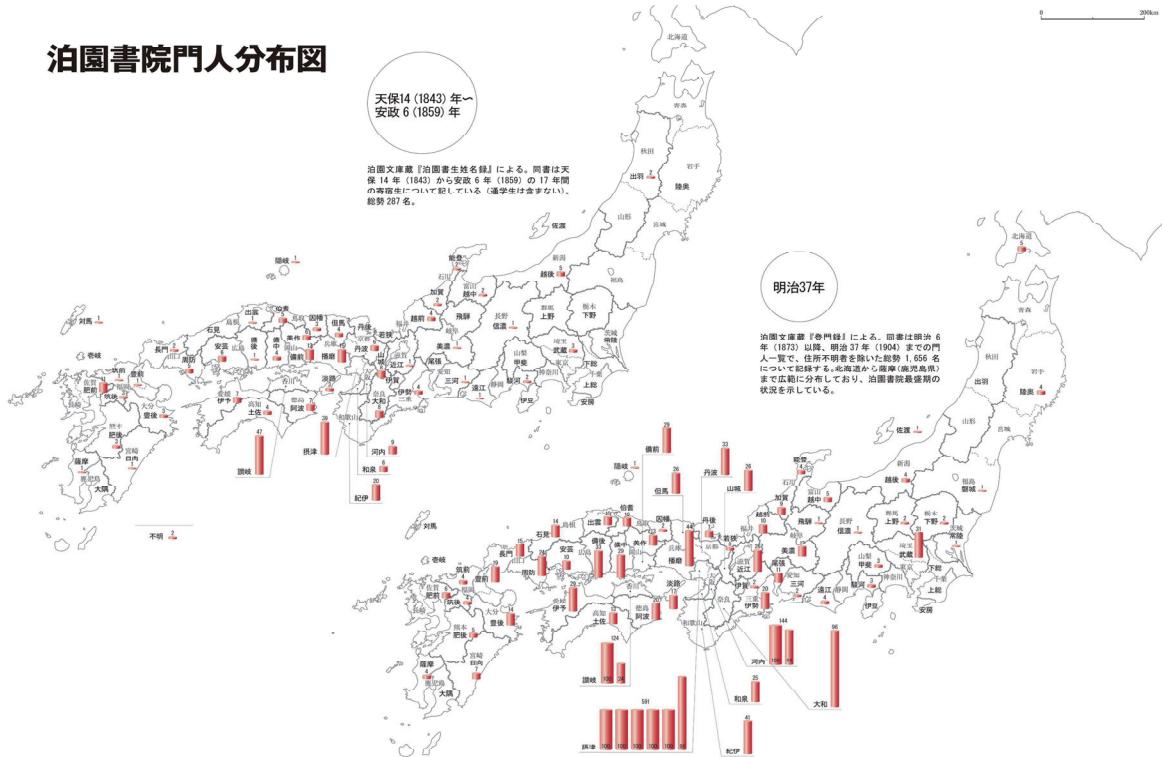
#### 主な洋学塾

芝蘭堂（東京） - 大槻玄沢  
慶應義塾（東京） 福澤諭吉  
適塾（大阪） - 緒方洪庵  
鳴滝塾（長崎） シーボルト

### 【資料5】林家塾から昌平坂学問所への展開



## 【資料6】門人の出身圏～泊園書院の門人の分布図（1843～1859年、1904年）



泊園書院のウェブサイト：<http://www.db1.csac.kansai-u.ac.jp/hakuen/syoin/monjin.html>  
参考文献：吾妻重二「泊園書院と関西大学」『関西大学年史紀要』20（2011年）

## 【資料7】日田・咸宜園の全国的な影響

